

## 資料・統計

## 2004年放射線治療の概要

## Annual Report of Radiotherapy in 2004

杉田 公 松本 康男 椎名 真 小田 純一  
 関 裕史 國井 亮祐 伊藤 瞳  
 Tadashi SUGITA, Yasuo MATSUMOTO, Makoto SHIINA, Junichi ODA  
 Hiroshi SEKI, Ryouusuke KUNII and Hitomi ITOU

2004年の当院放射線科における放射線治療業務の概要を報告する。

2003年の新患登録者数は726で、前年比1%減であった。大幅な増加であった一昨年と昨年の高水準を維持している。これに昨年までの登録患者および04年内登録例の再診を加える約900例の治療を行なった。

表1表2に2003年新患登録症例を原発臓器別度数および年次推移を示した。

特殊治療については全身照射6例、甲状腺癌I-131内服治療例、バセドウ病I-131内服治療例、Ir-192高線量率腔内照射22例（気管支6 子宮頸部16 胆道1）、低線量率腔内照射なし、Cs-137およびAu-198低線量率組織内照射6例（口腔4 膣2）であった。表3に例年の分類に従って密封小線源治療症例数を示した。

2005年の患者数は前年を越えるペースで推移している。7月に高精度の定位放射線治療装置が当院に導入され、この増加分が前年度分に加わった格好で

ある。導入当初はさしあたり転移性脳腫瘍の治療が主体になろうと予想していたが、意外に5cm以内の肺腫瘍の紹介がそれと並ぶようになっている。

定位放射線治療の適応は①4cm以内で4ヶ以内の脳転移、②頭頸部腫瘍、③5cm以内で3ヶ以内の原発性及び転移性の肺腫瘍、④5cm以内で3ヶ以内の原発性及び転移性肝腫瘍、⑤傍脊髄AVMである。①については部内規定であり、治療計画用の精細MRIで転移数が増えていることが判明する症例も多いが、転移数が多くとも保険請求は可能である。この他に通常照射の延長としてこの装置を用い、前立腺癌の治療などにも利用したい。これは通常の照射としての保険請求のみ可能である。

更に、この装置に関連して導入された3次元治療計画装置および治療専用CTが稼動している。これにより従来のライナック2台による放射線治療も様相は一変した。我々の習熟度にも依るが、精度は向上し質的管理と質的保証に寄与するところも大である。

表1 2004年新規登録患者原発臓器別症例数

脳	3	胃・腸	31	造血器	24
		肝・胆・膵	11		
口腔・唾液腺	10	消化器合計	141	皮膚・軟部・骨	14
上咽頭	3				
中咽頭	8	肺	179	その他の悪性腫瘍	14
下咽頭	10				
喉頭	24	乳腺	125	良性疾患	7
その他	9				
頭頸部合計	64	女性性器	38		
甲状腺	13	泌尿生殖器合計	104		
		前立腺	91		
食道	99	その他	13	合計	726

